



ミニ西国三十三ヶ所
東由岐の愛宕山に西国三十三番の観音石仏蔵を勧請したのは安政年間（一八五五頃）であると伝えられている。一番、二番は由宇の大師魔境内にあり、それより住吉神社下の三番から裏山をのぼり、愛宕山の尾根を一巡して長円寺に下り、境内の三十三番で終わっている。



由岐漁港
湾口の寛野島（ぬのしま）が防波堤の役目を果たして自然の良港となっており、源平盛衰記や太平記の中に地名が紹介されている。沿岸漁業のほか北九州近海への出漁もする基地でもある。



西の地岡崎神社例祭
西の地岡崎神社例祭は、打ち子が当屋の家々を回り「つつみ」「太鼓」「鐘」の打ち方を練習し、当日は「だんじりばやし」で賑わいます。（9月中旬）



西由岐八幡神社祭礼
西由岐八幡神社祭礼は、神輿巡幸、神輿の浜入り、大練り・小練りの行列、関船の巡行、御船歌、たたら音頭、うちわ踊り、オハケ立てといったように、県内でも数少ない、多くの行事・儀礼を含んだダイナミックな祭りです。（9月中旬）



東由岐天神社祭礼
東由岐天神社祭礼は、神輿巡幸、獅子舞、ねりこみ、関船巡行、御船歌、たたら音頭といったように、県内でもまれな多くの行事・儀礼を含んだ祭りです。（7月下旬）



ミニ四国八十八ヶ所
江戸時代末期、般若寺15世上人の手により持ち帰られた土により、ミニ札所が作られ、一番は住吉の森から、八十八番の般若寺境内の大師立像まで石仏が点々と並んでいます。



阿波沖海戦小公園
慶応4年（1868年）正月、京都で鳥羽伏見の戦いが始まった翌日、幕府軍艦「海陽丸」と薩摩藩軍艦「春日丸」は日本で初めての洋式軍艦による近代海戦をこの由岐沖で展開しました。その結果、春日丸は鹿児島方面へ敗走、海陽丸もそれを追って南下、春日丸が護衛していた輸送船「翔鳳丸」は由岐港内に逃げ込みました。そして西由岐「光願寺」において同船の首魁と地元代表「米田甚八」の間で会談が行われたのち、翔鳳丸は「寛野島」の島影で自爆、その乗組員は海陸に分かれ土佐に逃げました。



ぼっぼマリン（由岐駅）
JR由岐駅、物産館、郷土資料展示室、ふれあい水槽、円形水槽などを収容した複合施設。カリブ海をイメージした円形水槽やふれあい水槽では直接グレ、アジ、ウマヅラハギ等の魚に触れることができるので小さなお子さまにも人気。物産館では乾燥ひじき、焼豚・豚肩ロース、ウニの瓶詰めなどを販売しています。入場無料/8時～18時/火曜休（祝日の場合は営業、翌日休）0884-78-2323（ぼっぼ物産館）



由岐伊勢エビまつり
大漁祈願とまちおこしが一緒になった祭りで、大人から子どもまで楽しめるたくさんのイベントがあり、魚介類の展示即売会は、市価より安く提供されるため行列ができる好評ぶりです。（10月第4日曜日）



だるま朝日
11月頃から2月頃まで、だるま朝日が見られます。この現象は大気と海面の温度差が大きいために起こります。大気の層がレンズの役目を果たし、海面にもう一つの太陽が現れます。気象条件により月に数回しか見られません。



美波町